



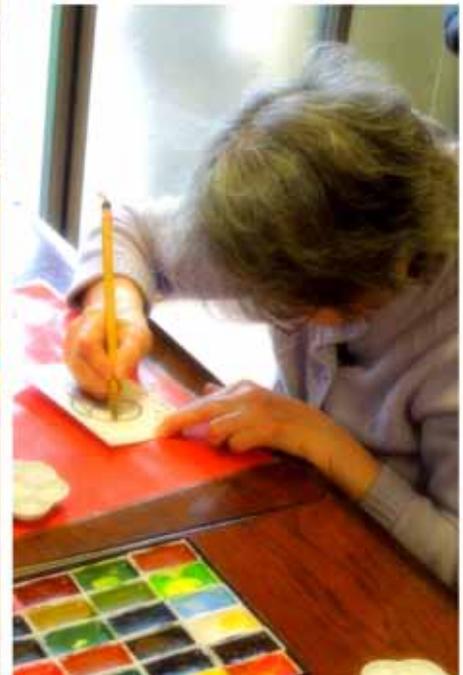
いろいろ豊かな生活を。

わくわく ゆったり 楽しく

ももたろう 活動報告



※写真の転載はご遠慮ください。



◆主な活動と空状況 [3/11] 現在 入浴 火満・水満・土満

◎多少空きができましたので、ご興味のある方は見学だけでもどうぞ。

| | | | | | |
|-----------------|------|-------------|-----------------|----|--------|
| 第1ももたろう 1人規模 | 月満 | 歌唱指導 | 第2ももたろう 9人規模 | 月満 | アート制作 |
| | 火空 | 民謡・体操 | | 火満 | 手芸(押絵) |
| | 水空 | フラダンス・語り・詩吟 | | 水空 | 手芸(押絵) |
| | 木満 | 習字 | | 木空 | 習字 |
| | 金満 | 生演奏 | | 金満 | アウトドア |
| 土空 | 健康体操 | 土満 | 制作・アウトドア | | |

※「空」は定員に余裕があります。「満」であっても、ご予約をお願いします。

長い間、男性のお客様がおらず、女学園のようだった“ももたろう”ですが、12月より1人の男性が入って下さいました。そして2月より男性スタッフが勤務しています。詩吟のボランティアを下さっている方も男性です。少人数でも男性が入ると、空気が変わるのが分かります。3月26日(火)、恒例の誕生日会を夜間に行います。



デイサービス
ももたろう

東京都府中市矢崎町 2-3-5

TEL 042-366-5248

FAX 042-366-5239

WEB <http://mtaro.jp>

事業者番号:1373801685

一人は、孤独か

生まれは東京淀橋区戸塚、今の新宿区。「男っぽい」とよく言われるのは、4人兄弟のうち、上3人が兄だからだろうか。小学校卒業後、東洋高等女学校に進学した。当時「女の子は早く結婚し、子供を産むべき」という風潮があり、親から和裁と洋裁を習わされた。当時から社会に出て仕事があった私は、親の目を盗み内緒で和文タイプライターを習った。偶然、和裁教室で知り合った方が厚生省の関係者だったため、国家試験を受ける事も無く、簡単なテストと面接でタイプピストとして厚生省に就職。全員男性の職場で、女性は一人。医師と共にタイプライターで文書を作成する仕事をした。仕事にどこか物足りなさを感じていたこともあり、仕事が終わってからダンス教室に通った。当時社交ダンスの全盛期で、たまたまダンスパートナーとなった同年齢の男性と練習を重ね、大会にもよく出場した。大会に出るにはペアでたくさん練習する必要があるため、自然と親しくなり、5～6年の交際期間を経て結婚。子供は男の子2人で、出産後も保育園に通わせながら仕事を続けた。父や職場の同僚からは「子どもがいるのに仕事をするなんて」と、口に出して言われたりもした。母からは「不良になる」とも言われたが、子供達を信じて好きにさせた結果、まっすぐ立派に育ってくれた。

20年近く厚生省に勤めた後、『日本標準』というドリルなどの教材を作る会社に転職し、編集部で色々なことを企画・提案した。ここでは厚生省と違って仕事が躍動していたし、何か出来上がる達成感もあった。男性が中心の職場で、優秀な人から多く刺激を受けながら、55歳の定年まで仕事をした。その後、雇われ店長として三軒茶屋で9坪のブティックを始めた。少々高め的女性物を扱う店で、殆ど一人で店番をしていた。辺鄙なところにも関わらず、お客さんが絶えず洋服もよく売れた。時々見に来る社長も驚いたほどだ。私は“ゴマすり”は嫌いだし、「買ってくれ」とは決して言わなかった。ただ、来てくれたお客さんが世間話を楽しんで貰えるよう、お客さんの事を覚え、人によって話題や接し方を変える工夫をしていた。男性客も多かったが、男性はさっぱりしていて接しやすい。女性の方が感情的な分、難しい点も多い。それにしても良く売れたため、社長から「何か秘密があるのでは」と探りを入れてきたほどだ。

60歳を過ぎた頃、エステの世界に入った。美容に対して興味があったのですぐ馴染めた。研修や試験も沢山あり大変だったが、自分の努力がすぐに成果として表れるのは嬉しく、やりがいを感じられた。しかし、典型的な女性の職場。年長者でありながら成績が良かったため、嫌がらせや嫉妬も多く、嫌なことも多かった。陰口や愚痴は大嫌いだからこそ、辛い気持は自分の心の中で処理し、頑張っている証拠と思って努力を続けた。努力の甲斐があり、社長賞を貰うまでになると周囲の目は変わっていった。元から競争心は全くないし、若い子の多い職場。年上だからと威張るような事は決して言わず、皆とレベルを合わせたため上手くいった。仕事は引退したが、当時のお客さんとは今でも交流がある。

現在89歳。主人は62歳で亡くなり、以後27年間一人で生活している。長男一家は歩いて15分の所に住んでいて、よく家に来ては面倒を見てくれる。お嫁さんも仲良くしてくれ、テレビで見る“嫁姑問題”はいまいちピンとこない。孫たちも時々彼女を連れて来てくれ、若い世代との交流も気持が若返るようで嬉しい。他の方から「一人だと寂しいでしょ？」と言われるが、どうして寂しいのかわからないし、寂しいと思った事が無い。「何事も一人で仕上げるもの」という意識が強いのかもかもしれない。同居を誘ってくれた息子からも、「人に頼らないよね」と言われている。

人に携わる事や、働くことは好き。仕事に後悔や未練は無く、周りが満足してくれたのであれば、それでいい。でも実は、人の下で働くのも、人前で話すのも苦手。ブティックでの仕事は楽しかったが、人付き合いも本当は苦手。特に同性・同年齢の人たちが苦手だった。今、週3日通っている“ももたろう”は、一人を除いて全員女性で年齢も似たようなもの。今では、不思議と同世代の人たちと話をしている時間が、とっても幸せに感じられる。皆で行う輪投げなどの活動も楽しいし、最近男性の職員が入ってくれて心強く、ほっとする。今一番の心配は、夜に喘息が出て胸が苦しくなると。次の日はデイをお休みするのが残念。この生活がいつまでも続くことを願っている。